



ALSという病気を知っていますか?	1ページ
雨天でも盛り上がった、ふれあい祭り!! / 医療従事者対象研修を開催して / 三重病院のサラムシ⑤	2ページ
プランター花壇 にじいろガーデン / 小児糖尿病功労賞	3ページ
Road to 2020 第6回女子ユースハンドボール世界選手権に帯同して	4ページ
5病棟の生活のひとこま⑩	5ページ
アレルギー教室のクッキング / 外来からのお知らせ / 外来診察のご案内	6ページ

ALS という病気を知っていますか?

ALSはどんな病気ですか?

筋萎縮性側索硬化症(きんいしゅくせいそくさくこうかしょう)は、英語でAmyotrophic Lateral Sclerosisと言い、略称でALS(エイエルエス)と呼ばれます。2年前に社会現象になった「アイス・バケツ・チャレンジ」を覚えてみえるでしょうか。アメリカを中心にALSの啓発活動として始まった「アイス・バケツ・チャレンジ」のルールは、指名されたらバケツ1杯の氷水を頭から浴びるか、ALS団体に寄付をする、次に3人の友人を指名してチャレンジを促すというものです。日本でも多くの著名人が参加し、ALSの認知度向上に貢献しました。

ALSは全身の筋肉の萎縮と筋力低下をきたしますが、筋肉そのものの病気ではなく、筋肉を動かす運動神経(大脳からの運動の命令を筋肉まで伝える神経)の病気です。ALSは国から難病に指定されており、難病中の難病と言われています。多くの研究者が原因究明および治療法開発を目指して研究しています。全国では約1万人の発症者がおり、1年間で新たにこの病気にかかる人は人口10万人当たり2人です。

ALSではどのような症状があらわれ、どのような経過をたどりますか?

一側の手または足の筋力低下、あるいはしゃべりにくさで発症することが多く、筋力低下が全身に広がっていきます。病気が進行し、食べることの補助として胃瘻を作るか、自発呼吸が困難になった時に人工呼吸器を装着するかを選択する時期がきます。人工呼吸器を使わない場合、病気になってから亡くなるまでの期間はおおよそ2~5年と言われています。その一方で、人工呼吸器を使わなくても10数年の非常にゆっくりした経過をたどる

方もみえます。人工呼吸器を装着するかしないかは、多くの方が悩まれます。

ALS患者さんが自ら原稿募集をして編集した「生きる力」という冊子(岩波ブックレット)があります。そこには、人工呼吸器装着の3つの条件が記載されています。その条件とは、本人が生きて希望と意欲を持つこと、パソコンを覚えて意思表示ができること、御家族の支援があることと書かれています。

このように、人工呼吸器を延命医療と考えず、生きるための補助具として捉え、体が不自由でも積極的に社会参加されている方もみえます。

三重県はALSの多発地区ですか?

紀伊半島の熊野灘に沿った地域(三重県~和歌山県)には、ALSの集積地が点在していました。この地域のALSに関する最初の記載は、江戸時代の元禄2年(1689年)に刊行された本朝故事因縁集に出てくる「古座の足萎え」が最初とされています。明治以降の医学雑誌には、すでにこの地方にALSが多発することが記載されていますが、1960年代に和歌山県立医大の研究者による疫学調査でALS多発地区があることが確認されました。しかし、多発の原因が明らかにされないままALS発生は徐々に減少しています。この地方にALSが多い原因が明らかになれば、ALSだけではなく、他の神経難病であるパーキンソン病やアルツハイマー病の原因究明や治療法開発につながる

ことが期待されています。

(神経内科部長
佐々木 良元)

